



佃島と高層マンション

(2015年 12月 20日 小池拓矢 撮影)

地理空間学会ニュースレター

TOPICS

- ・第9回大会のお知らせ
- ・第9回大会巡検のご案内
- ・第20回例会の報告
- ・第21回例会の報告
- ・学会賞受賞者コメント(白坂 蕃・橋本雄一・横山 智)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(小池拓矢)

JAGS



第9回大会のお知らせ

2016年(第9回)大会を6月18日～19日に開催いたします。大会概要を以下のとおりお知らせいたします。研究発表とご参加をお待ちしております。

【日 程】

6月18日(土)：

- ・シンポジウム「増加する在留外国人とホスト社会としての日本～その現状と課題～」(仮題)
(オーガナイザー：山下清海会員)

- ・一般口頭発表、一般ポスター発表
- ・評議員会、総会、表彰式、懇親会

6月19日(日)：

- ・巡検「“TOKYO 2020”がもたらす水彩都市の空間再編」(東京都中央区～江東区)

【会 場】

筑波大学 筑波キャンパス第1エリア

(茨城県つくば市天王台 1-1-1)

※当初、会場には筑波大学東京キャンパス文京校舎を予定しておりましたが、事情により同所を使うことができません。今年の大会は筑波大学筑波キャンパスで行うこととなりました。恐縮ですが何卒ご了承ください。



つくばエクスプレスつくば駅（つくばセンター6 番のりば）より路線バス約 10 分、「第一エリア前」下車。

（参考）

- アクセス案内

http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html

- つくばセンター6 番のりばバス時刻表（PDF）

http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_files/center/06.pdf

【研究発表募集】

一般の口頭発表とポスター発表を募集します。会員の皆様の積極的なご発表をお待ちしております。ふるってご応募ください。

なお応募要領に以下の 2 点の変更がありますので注意してください。お問い合わせは地理空間学会集会委員会 <jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp> へお寄せください。

[変更点]

- 申込ファイルに**要約（100 字程度）の記載**を求めることとしたこと。

- 発表要旨原稿は**大会後に公開**されること。

《研究発表要領》

下記 1)～8) の要領にて口頭発表とポスター発表を募集します。よくお読みのうえお申し込みください。

1) 単独発表は会員に限る。共同発表の場合には発表者に会員が 1 名以上含まれれば、残りの発表者や筆頭者が非会員でも発表可。

2) 同一の筆頭者の発表は口頭発表・ポスター発表にそれぞれ 1 つずつ可。

3) 口頭発表の時間は質疑応答・交替をあわせて 20 分。詳細は申込者に通知する。

4) ポスターサイズは申込みに通知する。なおポスター発表では学会参加者の投票によって優秀ポスターを選定し表彰する。その投票対象は「筆頭発表者が本年 3 月末日において 35 歳未満の会員である」ものに限る。

5) 申込み手続き（口頭・ポスター共通）は、以下（1）から（3）のように作成した申込みファイルを 5 月 9 日（月）までに電子メールに添付して jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp へ送付することによる。メールの件名は「2016 発表申込み」とつけること。申込み締め切り後の発表題目変更はできない。

（1）申込みファイルの様式は、“**2016 申込 氏名.xls**”である。これに必須項目を全て記入したうえで、ファイル名の“氏名”部分を筆頭発表者の氏名に置き換えて、送信すること（例：名前が「地理 薫」の場合：2016 申込_地理薫.xls）。

（2）今年から、申込ファイルに要約（100 字程度）の記載を必須としたので、留意すること。

（3）1 つの発表ごとに 1 つのファイルを作成すること。1 人の筆頭者が 2 つ以上のファイルを作成する場合には、ファイル名末尾に数字をつけて区別できるようにすること。

6) 申込み後、発表者は、A4 版 1 枚以内の発表要旨原稿ファイルを作成し、5 月 31 日（火）までに電子メールに添付して jags-meeting@geoenv.tsukuba.ac.jp へ送信すること。その様式ファイルは筆頭者へ集会委員会からメールで送信する。あるいは学会ホームページからダウンロード可能とする。これを利用して発表要旨原稿ファイルを作成し、ファイル名には筆頭者氏名を付すこと（例：2016 要旨_地理薫.doc）。送信メールの件名は「2016 発表要旨」とつけること。

7) 発表要旨原稿は大会後にそのまま Web で公開される。著作物の利用には注意すること。

8) 発表の詳細要領については申込み締め切り直後より告知する。



第9回大会巡検のご案内

6月19日（日）に大会巡検がございます（雨天決行）。

【巡検テーマ】

“TOKYO 2020”がもたらす水彩都市の空間再編
—土地利用から紐解く港湾埋立の歴史とこれから—

【オーガナイザー】

猪股泰広・玉 小・佐野浩彬・曾 斌丹・
中川紗智・本多広樹（筑波大・院）

【内 容】

東京の中央区・江東区のウォーターフロントに関する、
工業・物流、交通・インフラ、居住・防災、環境・資源、
観光・文化

徒歩および公共交通機関（水上バス、電車）を用いての

実施

※水上バス代は参加費に含まれておりますが、団体行動
中の電車代は各自でのご負担をお願いいたします。

【集合場所・時刻】

9:30 東京メトロ東西線・都営大江戸線「門前仲町」駅
3・4番出口方面改札口

【解散場所・時刻】

16:30 東京メトロ有楽町線・新都市交通ゆりかもめ線「豊
洲」駅（予定）

【参加費】

2,000円程度を予定 ※昼食代別

※巡検の参加には事前の申し込みが必要です。

巡検参加ご希望の方は、下記のアドレスまたはQRコードから登録フォームにアクセスし、参加登録を行ってください。

<http://goo.gl/forms/tYyzqKL3sL>



締め切りは**6月8日（水）15:00**です。具体的な巡検行程、最新の情報につきましては、地理空間学会HPの大会情報のページ（<http://jags.ne.jp/archives/1201>）に随時掲載します。なお、巡検行程や巡検の形式上、定員を25名とし、定員を超えた場合は、会員を優先させていただきます。ご了承ください。

巡検に関するお問い合わせは

本多 (s1420978@geoenv.tsukuba.ac.jp) へお願いします。



第20回例会の報告

地理空間学会では、第20回例会を下記の通り開催いたしました。（筑波大学人文地理談話会共催）

【題 目】

「宗教地理の現在—その可能性と課題—」

【オーガナイザー】

卯田卓矢（筑波大・博士特別研究員）

【趣 旨】

多様な信仰が重層的に展開し、「宗教の実験室」とも称

される日本において、宗教地理学は人文地理学の一分野としてこれまで数多くの研究が蓄積されてきた。従来の宗教地理学の中心的なテーマとしては、聖地、宗教都市・集落、巡礼、分布・信仰圏、村落の宗教組織などを挙げるができる。近年になると、これらのテーマに加えて、新たな視点から宗教を論じる研究がみられるようになった。そこ

で、本例会では宗教地理に関する最新の研究成果の報告を通して、＜宗教地理の現在＞をめぐる可能性と課題について議論することを目的とした。

【会場・日程】

筑波大学 東京キャンパス文京校舎 1 階 120 講義室

2016 年 3 月 15 日（火）13:00～16:00

【発表者・題目】

○石坂 愛（筑波大・院）

「天理市における教団と住民の土地利用をめぐる諸相」

○卯田卓矢（筑波大・博士特別研究員）

「郊外ニュータウン居住者における初詣行動の多様性
ー “全国民的な行事” 初詣の地理学的理解に向けてー」

○川合泰代（明治学院大・非）

「『道』の陰陽五行思想から読み解く時間と空間の感覚についてー近世までの日本人の聖地信仰を理解する手掛かりとしてー」

○筒井 裕（帝京大）

「山形県庄内地方における信仰の重層性と競合に関する



写真 総合討論の様子

（2016 年 3 月 15 日 橋爪孝介 撮影）

地理学的研究」

【コメンテーター】

○松井圭介（筑波大）

※例会後、茗荷谷駅前の「たかの家茗荷谷店」で懇親会を開催しました。

第 21 回例会の報告

第 21 回例会を下記の通り開催いたしました。

【題 目】

「カナダ・ブリティッシュコロンビア州における
農村空間の商品化」

【趣 旨】

農村空間において生産機能が相対的に弱まり、消費活動が盛んになることを「農村空間の商品化」として捉えることができる。この例会では、魅力的な自然景観と独特な農業が展開し、様々な形の農村空間の商品化が進んでいるカナダのブリティッシュコロンビア州のうち、人口集中地域に近いローワー・メインランドとカウチンバレー、オカナガンバレーの 3 つの地域を取り上げ、農村空間の商品化の特徴と役割を明らかにした。



写真 例会の模様

（2016 年 4 月 23 日 橋爪孝介 撮影）

【会場・日程】

日本大学 文理学部 3号館5階 3504教室
(東京都世田谷区桜上水 3-25-40)

2016年4月23日(土) 13:30~17:10

【発表者・題目】(*は登壇者)

0. 田林 明*
「趣旨説明・研究地域の概要」
1. 仁平尊明*・田林 明・菊地俊夫・兼子 純・トム ワ
ルデチュック
「ローワー・メインランド地域におけるファーム・ダイ
レクト・マーケティングの特徴」
2. 田林 明*・仁平尊明・菊地俊夫・兼子 純・トム ワ
ルデチュック
「ローワー・メインランド地域におけるサークル・フ
ーム・ツアーの意義」
3. 兼子 純*・菊地俊夫・田林 明・仁平尊明・トム ワ

ルデチュック

- 「バンクーバー島カウチンバレー地域における農村観
光の構造」
4. 菊地俊夫*・兼子 純・田林 明・仁平尊明・トム ワ
ルデチュック
「バンクーバー島カウチンバレー地域におけるワイナ
リーの発展にみる農村空間の商品化」
5. 矢ヶ崎典隆*
「オカナガンバレーのケローナ地域におけるワインツ
ーリズム」
6. 総合討論
〔登壇者所属〕
○田林 明(筑波大・名誉教授)
○仁平尊明(北海道大) ○兼子 純(愛媛大)
○菊地俊夫(首都大) ○矢ヶ崎典隆(日本大)
※例会後、居酒屋「きちんと」で懇親会を開催しました。



学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2015 年度学会賞の特別賞を受賞された白坂 蕃会員、学術賞を受賞された橋本雄一会員、横山 智会員から受賞のコメントをいただきました。

特別賞 白坂 蕃会員(東京学芸大・名誉教授)

2015 年度地理空間学会賞の特別賞をいただき、たいへん光栄です。これまで私の発表してきたスキー場、焼畑、hill stations、そして移牧などの論文を評価していただき、うれしいことです。

私の研究のはじまりは学位論文で、その作成の過程で山本正三先生から研究の視点や地域構造のとらえ方などを学びました。「社会科学は社会のシステムを解きあかしてゆく学問である。機械仕掛けのからくりを分解してゆくようなものだ。分解してみれば、どのように組み立てればよいのか分かる。つまり地域をどのように作り上げたら良いのかも、みえるのだ」という山本先生の教えは印象的でした。

「地理空間学会 特別賞」をいただいて

「景観から、その土地を理解するのが近道だが、それには膨大な知識と経験が必要になる。だから、あちこち見て歩きなさい。歩くことは財産である」。私の身近におられた市川健夫先生からは、このようなアドバイスをいただき、こんにちでも私はこのアドバイスを実践しています。

学位を得てから私の興味は拡大し、東南アジアの hill stations の形成と農耕、西双版纳の焼畑(刀耕火種)、雲南の西藏族によるヤクの移牧、アルプスや南カルパチア山脈の移牧、ここ 7 年はパミールの 4,500m くらいまで行き、ヒツジ・ヤギ、ヤクなどの移牧の調査をしています。

振り返ってみれば私の研究はすべて山や山岳に関係しています。興味のおもむくままに研究してきたら、そんな

ったので、その理由は自分でも判然とはしません。

こうした研究を通じていえることは次のようなことです。

地理学とは「フィールドワーク」を手段として「比較」を方法とする学問である。ある地域で、ある生業に結び付いた社会的特徴をつかんでおけば、別の地域に出会っても、同じ生業を営んでいる土地なら、その社会構造をだいたい予測できるようになる。このことは、さまざまな社会を理解するうえで、たいへん重要なことであると思います。

元来、学問というものは既に起こってしまった事象について、それが、なぜ起こったか、その辿った経過が、なぜそうなったのかを論理的に説明することを目的とするものだとは私は思います。論理的に、矛盾なく説明、記述がで

きればそれで終わりです。従来の地理学の研究観や研究活動の中には将来に対する予測は含まれてはいませんでした。しかし学問のおかれた最近の事情を考えると「これから、どうなるか。どうすべきなのか」という視点が重要になってきました。この点の扱い方は若い研究者に期待するところです。

しかしながら、地理学は社会批評に堕してはならない。どこまでも実証的でなければならないとも私は思っています。

今回の特別賞は「もう少し努力しなさい」という励ましと受け取り、あと数年はフィールドワークに精を出したいと思っています。

ありがとうございました。

学術賞 橋本雄一会員（北海道大）

このたびは拙著『東南アジアの経済発展と世界金融危機』（古今書院）に対し栄誉ある地理空間学会学術賞を賜り、大変光栄に存じます。これまでご指導、ご支援いただいた多くの方々に改めて感謝を申し上げます。

私が東南アジアを研究するようになった切掛けは、1996年にアジア経済研究所が行った通産省委託「国別通商政策研究事業」のマレーシア研究チームに加えていただいたことです。このチームの構成メンバーは、ほとんど開発経済学を専門とする先生方で、最初は全く議論に参加することができませんでした。しかし、一月近くの間、一緒にフィールドワークを行い、頻繁に話をするうちに、プロジェクトにおける研究ニーズや各先生方の考え方などを何となく理解できるようになりました。経済グローバル化が進み、マネー経済が急速に規模を拡大する中で、どのような研究が地理学に期待されるのかを私が考えるようになったのは、この頃からです。

この時期のマレーシアは、1980年代半ばから続く高度経済成長期のピークにあり、首都クアラルンプールではペトロナスツインタワーをはじめ様々な高層ビルが建設されていました。2年後の1998年に再び同事業の調査でマレーシアに赴くと、東南アジアは通貨危機のただ中にあり、

多くのビル建設現場で工事が止まっておりました。現地のTVニュースでは通貨危機発生時のタイ中央銀行の映像が繰り返し放送され、その中で銀行職員が泣きそうになって事態を説明していました。この状況を見てから、東南アジアの経済発展や多国籍企業の展開だけでなく、通貨危機など経済的な重大事を報告したいと考え、前著『マレーシアの経済発展とアジア通貨危機』（古今書院、2005年）を刊行しました。そしてアジア通貨危機発生から10年後、この本の改訂版を企画している時、今度は米国を震源地として世界金融危機が起こり、東南アジア諸国は経済的な打撃を受けました。そこで、アジア通貨危機に加えて、世界金融危機の影響にも注目して議論を行う必要があると思い、拙著を執筆いたしました。この本が、少しでも経済学や政治学の研究者と議論を行うための共有すべき知識の提供となれば幸いです。

最初のプロジェクトで共にマレーシアを調査したアジア経済研究所の方々は、現在、空間経済学とGISを統合する試みを行っており、その成果を様々な形で公表しています。私も、この栄えある受賞を励みとし、新たな研究に挑戦していきたいと思っています。

学術賞 横山 智会員（名古屋大）

このたびは、『Integrated Studies of Social and Natural Environmental Transition in Laos』（Springer, 2014 年, 編著）、『資源と生業の地理学』（海青社, 2013 年, 編著）および拙著『納豆の起源』（NHK ブックス, 2014 年, 単著）の 3 冊の刊行に対して、地理空間学会賞・学術賞という思いがけない栄誉を頂き、誠にありがとうございました。授賞対象になった 3 冊の書籍は、いずれも自分にとって柱となる研究です。したがって、この 3 冊の成果で栄誉ある賞を頂けたことは、今後の研究に大きな励みとなります。これまでご指導下さいました先生方、同僚の皆様方、そして私のフィールドワークにご協力頂いた数多くの方々に深く御礼申し上げます。

1 冊目の『Integrated Studies of Social and Natural Environmental Transition in Laos』は、2009 年から 2013 年まで名古屋大学 GCOE プログラムで大学院博士課程の学生と共にラオスで調査を実施してきた成果をまとめたものです。GCOE プログラムには、留学生も参加していたため、授業や調査はすべて英語で行われました。したがって、その成果出版も必然的に英語で行うことが求められました。英語で出版したことによって、結果的に現地調査に協力していただいた研究機関に成果を還元することができ、ラオスのために微力ながらも役に立つことができたと感じております。この原稿を執筆している時点で、紙媒体での販売数は分かりませんが、電子媒体のダウンロード本数は、千本を超えております。忘れられた国と揶揄される小国ラオスについて論じられた学術書が、わずか 1 年強で千本もダウンロードされたということに驚くと共に、英語で成果を公開することの重要性を改めて感じている次第です。

2 冊目の『資源と生業の地理学』は、日本地理学会ネイチャー・アンド・ソサエティ研究グループが企画して刊行した 5 巻シリーズの『ネイチャー・アンド・ソサエティ研究』のうちの 4 巻目として出版したものです。当時、私は日本地理学会ネイチャー・アンド・ソサエティ研究グルー

プの発起人代表を務めていたため、シリーズの編集企画や出版社との交渉などで苦労しましたが、本受賞によってその労が報われた思いです。『資源と生業の地理学』では、これまで地理学では資源として扱われてこなかったようなモノに対しても「まなざし」を向けることを編集方針として決めました。そして、これまで見向きもされなかったモノが「資源化」されるプロセスや社会・自然環境と「資源化」の関係性を扱う原稿を 1 冊の書としてまとめることができました。編者として日本の地理学でも環境決定論を超えて自然と社会の関係性を論じられる時代になったことに、今後の地理学に大きな可能性を感じました。

3 冊目の『納豆の起源』は、書名からも分かる通り、納豆についての研究ですが、おそらく私が納豆の調査をしていることを意外に思われた方が多いと思います。しかも、ラオス農山村で土地利用や生業変化の研究を約 20 年間実施している私が納豆を探しにネパールやインドにまで足をのばしていたことは、ほとんど知られていなかったのではないのでしょうか。しかし、納豆研究の出発点も、やはりラオスでした。私がはじめて海外で「納豆」と出会ったのは 2000 年、調査帰りに立ち寄ったラオス北部のルアンパバーンという世界遺産の町でした。私が尊敬する中尾佐助や佐々木高明らが 1960 年代後半に提唱した「照葉樹林文化論」では、納豆や味噌のような大豆発酵食品が東アジアから東南アジア山地部、そしてヒマラヤに至る照葉樹林帯に広く分布すると論じられました。おそらく今の学部生や大学院生の方々は「照葉樹林文化論」など、聞いたこともないでしょう。しかし、私と同じ世代で東南アジア研究をしている学徒は、誰もが知っている有名な環境論です。書籍でしか知識を持っていなかった照葉樹林文化の一文化要素とされる東南アジアの納豆と 2000 年に遭遇したことは、自分の中では感動的な出来事でした。それ以降、市場で納豆を探し始め、調査を重ねるうちに、納豆をつくるために必要とされる菌の供給源となる植物に着目すると地域ごとの納豆の違いが明らかにできるのではないかと思

うようになりました。最終的に照葉樹林帯 63 地点を調査し、結論では、僭越ながら、かつて照葉樹林文化論を提示した偉大な先輩の論を批判しつつ、新しい納豆の起源についての仮説を提示させて頂きました。1972 年に中尾佐助が『料理の起源』で納豆の起源を提示してから 40 年振りの新しい仮説提示となったわけですが、拙書で提示した仮説は、今後批判されることもあるかもしれません。しかし、誰かが新しい仮説を提示し、議論を先に進める必要がありました。今後、納豆に限らず、私が提示した議論が食文化研究の発展にも貢献できればと思っています。

最後になりますが、地理学は、自然、社会、文化を総合的な視点で捉えて論じるという点で、他の学問分野とは異なる特徴を有しています。今回の授賞対象となった 3 冊共に、いわゆる系統地理学ではなく、地理学の総合性をアピールすることができる内容であったと思います。今後も私は「地理学者」であるということを前面的にアピールしつつ、他の学問分野の研究者からも注目していただけるような成果を提供できるように、この受賞を励みとしてより一層研究に邁進して行きたいと思っています。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



学会からのお知らせ

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第 8 巻 2 号に同封した振込用紙でお支払いください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

〔年会費の振込先〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ” ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

〔地理空間学会学術基金の内容〕

○名 称：地理空間学会学術基金

○目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：1 〇2 万円（何〇でも可能です）

〔振込方法〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ” ツカイカ” クシ” ユツキン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お

名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研

究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。

コラム「わたしのフィールドから」

小池拓矢（首都大・院生）

私の研究のフィールドである東京都中央区佃は佃島と石川島からなる東京の臨海部に位置しています（図1）。もんじゃストリートで知られる月島に隣接していますが、多くの観光客が訪れる月島に対して佃は住宅街が広がる地域となっています。その名の通り佃煮発祥の地であり、現在でも3軒の佃煮屋が営業していて、昔ながらの佃煮を求めて多くのお客さんが訪れます（写真1）。佃煮屋が位置している佃島は昔ながらの下町が残っている場所です



写真1 現在も営業している佃煮屋
(2015年12月20日 小池拓矢 撮影)

が、これとは対照的に石川島では高級タワーマンションが川沿いに立ち並んでいます。この高級タワーマンション群は「大川端リバーシティ21」として整備されており（写



図1 佃地域の位置

真 2), 東京駅や銀座からのアクセスが良好なことからも人気がある住宅地となっています。周辺の遊歩道では散歩やジョギングをする人びとの姿を見ることができました。

私の研究はどのような景観に人びとが関心をもつのかを明らかにすることであり, 下町と高層マンションの対比が鮮やかな佃地域は研究のフィールドとして適しているといえます。デジタルカメラで被験者に自由に写真を撮影



写真 2 大川端リバーシティ 21
(2015 年 12 月 20 日 小池拓矢 撮影)

してもらったこれまでの調査では, テレビドラマの撮影で頻繁に利用される中央大橋や, その橋から見える東京スカイツリー (写真 3), 下町の駄菓子屋の前で子どもたちが遊んでいる様子など, さまざまな写真が撮影されていました。古いものと最新のものが混在する大都市東京を象徴するような景観が, このフィールドには広がっています。



写真 3 中央大橋からスカイツリーを臨む
(2015 年 12 月 20 日 小池拓矢 撮影)

編集後記

寒暖差の激しい冬が終わり, うららかな陽気の続く春がやってまいりました。本年度は 6 月 18 日に筑波大学筑波キャンパスにて大会を開催します。皆様のご発表, ご参加を心よりお待ちしております。

ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので, 掲載すべき情報やご要望がございましたら, 事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では, 会員間の情報交換の手段として, メーリングリスト (jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp) を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが, まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は, ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第 25 号

発行日: 2016 年 4 月 25 日

発行所: 地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>